

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

417件（前月比41.7、前年同月比-）と増加しています。熊本からの報告が299件と大半をしめ、定点当たりの報告は11.96でした。県の平均定点当たり報告数5.21を超えて多いのは、熊本及び宇城40件（定点当たり6.67）です。その他の地区でも八代、人吉を除き定点当たり1件以上の報告があり、また幅広い年齢より報告があります。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数2,901件（前月比1.50、前年同月比0.77）でした。今年3月以後6月に続き2度目の2000件台の報告です。前月から大幅に増加した疾患は、インフルエンザで、11月の10件から417件と増大しています。この数年発生が少なかったため今後の動向には注意が必要です。また、感染性胃腸炎で11月の836件から1,591件と増加しています。ただし、動向は例年同様と思われる。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症： 報告数140件（前月比0.8、前年同月比0.4）です。9月以降3桁の報告が続いています。菊池43件（定点当たり8.60）、熊本56件（同3.50）、天草13件（同3.25）、有明15件（同3.00）からの報告が多いようですが、報告のないあるいは少ない地区も5地区と県下半数に及んでいます。年齢は、1歳を中心として0歳～14歳から報告があります。
2. 咽頭結膜熱： 報告数38件（前月比1.3、前年同月比0.6）です。7月をピークに8月と9月と減少しましたが、10月より増加傾向にあります。山鹿の報告数6件（定点あたり3.00）が多いようですが、少数報告はほぼ県全域よりあります。年齢は1～2歳からです。
3. A群溶連菌咽頭炎： 報告数36件（前月比0.5、前年同月比0.4）です。2020年5月以降、月間の報告数は200件を下回り、2021年には100件を下回り、さらに2022年には二桁となり減少傾向が続いています。定点当たりの報告が1を超えているのは、菊池14件（定点当たり2.80）、天草6件（同1.50）、御船4件（同1.33）です。4～5歳を中心とした幅広い年齢層からの報告です。
4. 感染性胃腸炎： 報告数1,591件（前月比1.9、前年同月比0.7）と7月から11月までの1000件を下回っていましたが急増しました。動向としては例年より少なめです。菊池406件（定点当たり81.20）、八代202件（同50.50）が特に多く、山鹿72件（同36.00）、有明170件（同34.00）、熊本504件（同31.50）にも多いようです。水俣を除けば、各地区から二桁以上の報告があります。年齢別でも各年齢層で多くの報告があります。
5. 水痘： 報告数45件（前月比0.8、前年同月比2.3）と、9月の月7件を最低とし、その後漸増してきています。年齢的にも予防接種を受けている世代の1歳から5歳にやや多いようです。報告が定点当たり1を超えているのは、山鹿10件（定点当たり5.00）、菊池10件（同2.00）、有明6件（同1.20）、御船3件（同1.00）です。年齢別でも、1歳5件・2歳8件・3歳3件・4歳5件・5歳4件と少ないとはいえ、2014年に定期化されており、接種率、特に2回目の接種もれの有無に注意が必要かと考えます。
6. 手足口病： 報告数204件（前月比0.6、前年同月比0.4）と、今年は大きな流行は認めていません。菊池の65件（定点あたり13.00）が目立ちます。次に山鹿12件（同6.00）、御船17件（同5.67）に多いようです。1～2歳にピークがあります。

7. 伝染性紅斑： 報告数4件（前月比1.3、前年同月比1.3）で、動きはこの2年間小さいようです。熊本3件、有明1件で、1歳が3件でした。
8. 突発性発疹： 報告数111件（前月比1.1、前年同月比0.9）と、例年同様の推移です。菊池18件（定点当たり3.60）、山鹿6件（同3.00）に多いようですが、阿蘇を除き県下各地から報告があります。5歳以下からの報告でした。
9. ヘルパンギーナ： 報告数143件（前月比1.0、前年同月比1.5）で、9月以降は、140件前後の動きです。菊池37件（定点当たり7.40）、宇城18件（同4.50）、有明19件（同3.80）、天草14件（同3.50）でした。1～2歳を中心としています。
10. 流行性耳下腺炎： 報告数10件（前月比2.0、前年同月比1.7）と、このところ毎月多くて10件程度の報告があります。八代5件（定点当たり1.25）、水俣2件（同1.00）、菊池・御船・天草が各々1件でした。病原体定点としてR4年に、当院で耳下腺炎/顎下腺炎と診断した10検体を保健環境科学研究所に提出しています。この中からはMumps virusの検出報告はありませんでした。このうちの3例は1回のみではありますが、予防接種を受けていました。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告がありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数13件（前月比1.0、前年同月比0.7）と増加していません。全件熊本からの報告です。年齢別では20～29歳にピークがありますが、3歳以下には報告がありません。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症： 報告数75件（前月比1.0、前年同月比1.2）でした。男女別は、男性51件、女性24件でした。年齢別では、男女とも20代をピークに男性は10代後半から50代まで、女性は10代後半から30代に認めました。地区別は、熊本57件、次いで御船、八代、有明で5件、御船はすべて女性、宇城で2件、菊池で1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症： 報告数25件（前月比1.3、前年同月比1.2）でした。男女別は、男性12件、女性13件でした。年齢別では、男性は20代から40代、女性は20代から50代まで認めました。70代男女に4件ありました。地区別は、熊本で13件、以下、女性のみ八代で6件、菊池で4件、御船で2件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は6件（前月比0.5、前年同月比1.0）でした。男性5件、女性1件でした。年齢別では、男性は20代から50代に認めました。女性は20代に1件でした。地区別は、熊本4件、有明が女性のみ、宇城が男性のみ各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は19件（前月比0.8、前年同月比0.7）でした。男女別は、男性17件、女性2件でした。年齢別では、男性では10代から50代まで認めました。女性は10代後半と20代前半に認めました。地区別は、熊本17件、内女性2件、有明、宇城が各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
20件（前月比1.3、前年同月比1.0）、定点当たり件数は山鹿、阿蘇、八代、人吉3.0と多くなっています。乳児例は0歳1件です。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
3件（前月比0.6、前年同月比3.0）、1-4歳が2件です。定点当たり件数は有明1.0と多くなっています。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
1件（前月比0.3、前年同月比-）、阿蘇から1件です。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 0件（前月比-、前年同月比-）
2. 無菌性髄膜炎： 0件（前月比-、前年同月比-）
3. マイコプラズマ肺炎： 0件（前月比-、前年同月比-）
4. クラミジア肺炎： 0件（前月比-、前年同月比-）
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
0件（前月比-、前年同月比-）

届け出対象感染症

1類感染症：報告はありませんでした。	
2類感染症：結核	16件
3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症	8件
4類感染症：つつが虫病	1件
レジオネラ症	2件
5類感染症：アメーバ赤痢	1件
ウイルス性肝炎	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
侵襲性肺炎球菌感染症	3件
梅毒	21件
百日咳	1件
新型インフルエンザ等感染症：	
新型コロナウイルス感染症	87,245件